みんなでいっしょになかよく
みいな
那須塩原市男女共同参画情報

第 89 号
2025 年 6 月 20 日発行
《問い合わせ》市民協働推進課 0287（62）7019

誰もが自分らしく働き、生きられる社会のために

～男女共同参画の視点から考える「これからの社会」～

職業のジェンダーギャップ

ー性別による思い込みの職業選択ー

「男だから」「女だから」――そんな理由で、選べる仕事や役割が決まってしまう社会は、誰にとっても生きづらいものです。けれど実際には、いまだに多くの場面で性別による無意識の思い込みや制度上の壁が存在しています。

たとえば「子育ては母親の役目」「営業職は男性が向いている」といった言葉に、心当たりのある方もいるのではないでしょうか。

男女共同参画の視点から大切なのは、**“性別（ジェンダー）ではなく、その人の意志や個性に目を向けること”**です。それは「男だから」「女だから」といった先入観を手放し、一人ひとりが自由に進路や働き方を選べる環境をつくることでもあります。

例えば…

子育てや介護と仕事を
両立できる仕組みを
社会全体で整える

職場や学校で
「多様な生き方」を
尊重する教育を進める

政治や地域活動の場に
性別を問わず多様な声が届く
仕組みをつくる

こうした取り組みの積み重ねが誰もが“自分らしさ”を
活かし、輝ける社会につながっていきます。

「私なんて…」とあきらめる前に

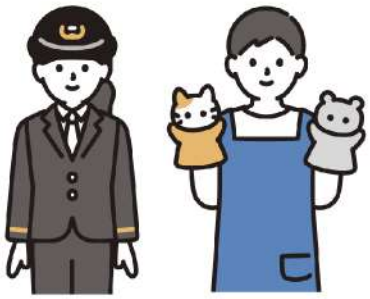
「私もできるかもしれない」と思える社会へ。

かつて「女性の仕事」と思われてきた分野でも、いま男性の活躍が広がっています。保育士や幼稚園教諭、看護師、栄養士、介護福祉士など、暮らしに身近な仕事の現場で、男性が働く姿が見られるようになりました。

女性もエンジニアや営業職など、これまで「男の仕事」とされてきた分野で力を発揮するようになってきました。性別という枠にとらわれず、それぞれの得意なことや関心を生かして働ける社会が、少しずつ実現しつつあります。

たとえば、男性保育士が増えることで、子どもたちにとって多様なロールモデルが生まれたり、父親世代との距離が縮まったりする効果も期待されています。また、看護師や介護職では、体力を生かしたケアや、異なる視点を持ったチーム作りが進んでいます。

性別に関係なく、「やりたい」「挑戦したい」という思いが尊重されること。そして、誰もが自由に職業を選び、活躍できる未来をめざして。今、わたしたち一人ひとりの意識と選択が、その一歩をつくります。小さな変化を大切に、社会全体で後押ししていきたいですね。



特集「わたしらしい仕事、選んでいいんだ」

若い女性が議員になるということ。二名の女性議員に聞きました！

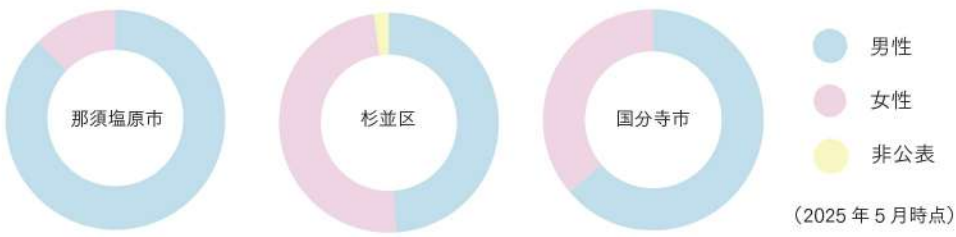
「政治家＝男性？」という思い込みを手放すとき

―― 政治の現場から考えるジェンダーギャップ

少しづつ社会は変わってはいるものの、**政治の分野は、ジェンダーギャップが依然として非常に大きいまま**です。全国の市区町村議会では、女性議員の割合が 2～3 割に届かない自治体が多く、**「議員＝中高年男性」**というイメージは今も根強く残っています。**実際、那須塩原市では 2025 年 5 月時点で女性議員の比率は 12.5%（24 人中 3 人）**と政治の場は、いまだに「女性が入りにくい世界」として壁が残っているのです。

けれど今、そんな風景を少しずつ変えようとしている人たちがいます。今回ご紹介する東京都杉並区議の**小池めぐみ**さん、東京都国分寺市議の**鈴木ちひろ**さんは、どちらも 20 代～30 代の時に初当選した若手女性議員です。自らの経験と声を武器に、議会の中からジェンダー平等や暮らしの課題に向き合い続けています。

議会における性別の割合



（2025 年 5 月時点）

現在、杉並区議会では 48 人中 24 人が女性、1 人が性別非公表。女性の割合が約 50%を超える自治体となっています。
国分寺市議会では 22 人中 8 人が女性議員。女性比率はまだ 36% 程度ですが、着実に広がりつつあります。

「地域から政治を変える」―― 小池めぐみさんインタビュー

小さな違和感、が政治への第一歩に

子どもの学校統廃合や児童館の廃止、遠方への通学など、身近な暮らしの中で起きる変化に、「これはおかしい」と違和感を覚えていました。

「子どもたちの権利は、どう守られているのか」そうした問いが、小さな声を拾い、地域に向き合う原点になったと語ります。

地域課題に自ら取り組む中で

2022 年の杉並区長選をきっかけに、住民運動に取り組む人たちと出会い、地域課題を自ら調べ、発信するようになります。道路拡張問題では自ら調査ツアーを企画し、資料を区に提出するなど、ひとつずつ「できること」に取り組む中で自信を深めていきました。

見て、声を上げて、変えていく

初めて傍聴した区議会では、想像以上の閉鎖性に驚き**「これは私たちが変えなければ」**と感じたといいます。

「議会も、地域も、人任せにせず、自分たちで見て、声を上げて、変えていく。そのために私は議員になろうと決めました」

Profile

小池めぐみ（こいけ・めぐみ）さん

栃木県宇都宮市出身。東京都杉並区・高円寺に在住。もともと政治や社会課題への関心が強く、2022 年の杉並区長選をきっかけに杉並区政への関心が高まる。2023年の統一地方選挙で杉並区議会議員に初当選。

Q. 性別による職業区別を一番感じる時は？

A. 選挙活動中、女性であることに対する偏見や暴言を受けた経験が複数あります。また、育児中や 介護中の人が議員活動をしにくい構造も「性別による役割意識」が背景にあると感じています。

Q. 女性議員だから出来たことは？

A. 当事者視点で生理の貧困や包括的性教育など、ジェンダー平等や女性の権利についての課題を議会で取り上げられる。男性議員がそういった問題を深く扱うことは少ないので、問題提起する重要性を感じます。

「誰かがやるのを待つんじゃない。私が動こうと思った」 —— 鈴木ちひろさんインタビュー

思いがけず訪れた転機

日本語教師として働いていた鈴木さんは、コロナ禍で突然仕事を失いました。社会の脆さを実感し、空いた時間を使って環境問題やジェンダーについて深く学び、奄美大島での滞在を通じて自然破壊の現場にも直面します。——**「このまま黙っていたら未来は守れない」**強い思いに突き動かされ、地域の暮らしと政治を自分の手で支えたいと考え、市議会議員への道を選びました。

性別や見た目にとらわれず
いろんな人が議員になれる！
という希望を子どもたちに届けたい

女性だって議員になれる、というロールモデルに

小学校や中学校の卒業式・入学式などに来賓として参加している議員や市長は、ほとんどが年配の男性で「政治の場って男性の世界なんだ」と小さい頃から無意識に感じさせられていました。

そんな鈴木さんは、「私はいつも、可愛いスーツを着て行くようにしています。髪も染めているし、ピアスも開いているし、**“こんな人が議員なんだ”って子どもたちの記憶に少しでも残ればいいな**と思って。」と語ります。

「子どもの頃、“政治って男の人がやるもの”だと思い込んでいた。だから、今の子どもたちには、もっと多様な大人の姿を見せたいんです。」

Profile

鈴木ちひろ（すずき・ちひろ）さん
神奈川県藤沢市出身。コロナ禍で転機を迎え、那須塩原市にあるアジア学院で1年間ボランティアをしたのち、国分寺にあるカフェスローにて働き始める。2023年に国分寺市議会議員に初当選。（当時27歳）

Q. 立候補した時の周囲の反応は？

A.「あなたみたいな若い女性が出てくれてうれしい」という応援の声が多く届きました。

Q. 議員になって得たもの、感じた課題は？

A. 議員になったことで市民の声を直接受け取る機会が増え、地域の課題をリアルに感じるようになりました。しかし、政治の世界はまだまだ男性中心。育児や介護と両立しながら働く環境は十分とは言えず、女性が立候補しにくいという課題があります。

Q. 議員を目指す女性や若者へ伝えたいこと

A. 不安があっても、一歩踏み出してほしい。議員になるのは、“なりたいから”ではなく、“伝えたいことがあるから”でいい。そんな気持ちを大事にしてほしいです。

自分らしい道を選べる社会へ

進学、仕事、家事や子育て —— 日々の暮らしのなかで、いつの間にか「女だから」「男だから」と選択肢を狭めてしまっていることがあるかもしれません。でも本当は、性別に関係なく、どんな道も誰にでも開かれているはずです。

議員として地域の声を届ける女性たち、保育や看護の現場で働く男性たち。「無意識の思い込み」や「これまでの常識」は根強く残っている一方で、今、少しずつ「当たり前」が変わり始めています。

大切なのは、自分の気持ちに正直に、自分らしい道を選ぶこと。誰もが性別にしばられず、自分で選ぶことができるような社会を、私たち一人ひとりの手でつくっていくこと。その選択が、社会のかたちを変えていきます。

毎年６月２３日から２９日までの１週間は

「男女共同参画週間」です。

【令和７年度のキャッチフレーズ】

“誰でも、どこでも、自分らしく”

男性と女性が、職場で、学校で、地域で、家庭で、それぞれの個性と能力を発揮できる「男女共同参画社会」を実現するためには 政府や地方公共団体だけでなく、国民の皆さん一人ひとりの取組が必要です。私たちのまわりの男女のパートナーシップについて、この機会に考えてみませんか？

男女共同参画推進本部は、「男女共同参画社会基本法」の公布・施行日である平成 11 年 6 月 23 日を踏まえ、毎年 6 月 23 日から 29 日までの 1 週間を「男女共同参画週間」として、様々な取組を通じ、男女共同参画社会基本法の目的や基本理念について理解を深めることを目指しています。

column ほっとミルク

旧西那須野町の「ポッポ通り」を久しぶりに自転車で走ってみた。沿道に植えられた色とりどりの草花に目を奪われながら走っていると、所どころに心和ませてくれそうな立て看が。「春高楼の　花の宴　めぐる盃　かげさして―（荒城の月／土井晩翠）」などの唱歌が記されていた。懐かしさのあまりペダルを漕ぐのを忘れ、口ずさんでしまった。

ところで、この「みいな」の編集も人心一新。「打たぬ鐘は鳴らぬ」という諺があるように、力を合わせて読み応えのある広報づくりに努めていきたいと思いますのでよろしくお願いします。（室井）

編集後記

「男女」という枠にとどまらず、性のあり方はもっと多様で、一人ひとりにそれぞれの生き方があります。すべての性の人が、自分らしく尊重され、共に生きやすい社会へ。この広報誌が、その実現を願う思いとともに、必要とする誰かの心に届いてくれることを願っています。（高根沢）

今回お話を聞いたお二人の“違和感を見過ごさず、自ら行動して変えていこうとする姿”が力強く、勇気をもらいました。私も「みいな」の編集を通して、日々の中で“ちょっと気になる”話題をみなさんと共有したり対話していけたら良いなと思っています。（佐藤）

自分がリラックスできる時間って大切ですよね。毎日が忙しないと、尚更そう思います。私は一日の終わりに、お気に入りのフレーバーティーを淹れてまったりしています。これから一年間よろしくお願いします。（大嶋）

DV 相談窓口

性暴力や性犯罪、子育て中の DV に関する相談を電話やチャットですることができます。LINE で気軽に相談できる窓口もあります。

詳しくはこちら

那須塩原市パートナーシップ宣誓

性的マイノリティのカップルがお互いを人生のパートナーとすることを市長に宣誓し、市がその事実を公的に証する制度です。

詳しくはこちら

「みいな」は市役所、公民館、図書館で配布しています。
バックナンバーは市のホームページでご覧いただけます。

みいな 第 89 号 2025 年 6 月発行
企画・編集：那須塩原市 市民生活部 市民協働推進課
〒325-8501 栃木県那須塩原市共墾社 108 番地 2
☎ 0287-62-7019
市民編集委員：高根沢、佐藤、室井、大嶋